



# 泉新だより

令和 5年 6月 1日  
練馬区立泉新小学校  
校長 宮崎 晴美

教育目標 : 思いやりをもち助け合う子 よく考え進んで学ぶ子 健康でやりぬく子

## 特別の教科 道徳

校長 宮崎 晴美

憂鬱な雨の日も、校庭の紫陽花に目を向けると華やかな気持ちになれるのが不思議です。子供たちは、もちろん元気一杯外で遊べる晴れの日が大好きですが、雨を喜ぶ動植物の様子にも目を向ける余裕をもちたいものです。

5月27日に行いました体育学習発表会には、多数の保護者・地域の方々に御参観いただきました。4年ぶりに全校競技も復活させ、子供たちの活躍の場を増やすことができました。練習や準備の成果を発揮し一人一人が輝く体育学習発表会となりました。御家庭での日々の励まし、本番での温かい拍手、そして学校への御理解・御協力ありがとうございました。

さて、本校では昨年度に引き続き『特別の教科 道徳』の指導法を研究しています。『道徳の時間』は、平成30年度に『特別の教科 道徳』として教科化されました。教科化の背景には、深刻化・複雑化するいじめ問題に対し道徳教育の充実が叫ばれるようになったことがあげられます。その対応のために、体験的な学習を始め、道徳的価値に迫る読み物の活用や道徳的価値に関する問題解決的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を行うことが求められるようになりました。

例えば、「インフルエンザの流行で楽しみにしていた行事が中止になり、感染した友達を『お前のせいだ』と責めてしまう。」という読み物があります。実際に子供たちの世界では、十分あり得ることです。授業では、この問題場面について「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、異なる意見をもつ友達と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えます。私たち教師は、子供たちが本音で議論できる発問を考えます。また、「こうするべき」と分かっているけど、できない自分と向き合う場面をつくり本音を引き出す工夫をしています。本年度は、『主体的に話し合い、よりよく生きる児童の育成』をテーマに各学年1回ずつ計6回の研究授業を行います。

道徳科の授業では、特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、目指す方向の対極にあるといえます。多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて自立した個人として、また、社会の形成者としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものであると考えています。

6月は、東京都が定める「ふれあい(いじめ防止強化)月間」です。いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成につながる具体的な取り組みを推進することを目的としています。1時間の道徳の授業で個の生き方が大きく変わるものではありません。直ちにいじめが解消されるわけでもありません。ふれあい月間を機に、いじめ問題等の防止、早期発見、早期対応に取り組み、日々のすべての教育活動の中で、道徳性に視点を置いた教育を進めてまいります。子供たちの教育に携わる学校・家庭・地域が共通の認識に立ち、子供たちへの指導・助言・支援にあたることができますよう、引き続き御協力をお願いいたします。

